

生涯学習の基礎力を 育成する教育課程と 学校づくり

長野県長野市立柳町中学校

こやまかずゆき

小山和幸（代表執筆）

【実践の内容】

確かな教育実践を手がかりとした教育課程の開発が、今、学校に求められている。この実践は、共通化を図る学習と個性化を図る学習とをバランスよく保障した教育課程で3年間学んだ生徒の姿を基に、これからの学校づくりの在り方について考えたものである。

【論文内容の紹介】

1 教育理念

「自分探しの旅を扶ける学校づくり」

2 学校教育目標

「思いやり・自由・創造」

3 めざす生徒像

- 出会いを大切にし、互いの存在を認め合いながら共に学ぶ中で、自分が憧れる生き方を求めようとする生徒
- 社会生活のルールを確かに身に付け、社会の一員として共に歩もうとする生徒
- 自らの問いを粘り強く追究する学び方を身に付け、自分らしさを発揮しながら問題解決に挑もうとする生徒
- 挨拶、掃除、歌に精一杯取り組む柳中生活を身に付け、自分の心と体を見つめ鍛える生徒

4 生涯学習の基礎力を育成する教育課程

5 新しい教育課程で学んだ生徒の学習観

(1) 学習に関するアンケート（3年生対象）

- 式を使って解いていくのが数学だと思っていたが、規則性を見つけることの楽しさを発見できた。（必修・数学）
- 中学では習わない文法や単語をたくさん

覚えられたし、一人で勉強していく力も備わった。（選択・英語）

- 年を重ねていくにつれ、追究内容レベルが上がっていった。足でかせぐこともたくさんでき、人とのかかわりが深まったのでよかった。（総合・学級プラン）

(2) 総合的学習で追究した内容を選択教科の学習で豊かに発信したK生

K生にとって、自分の足で歩き「発見した楽しさ」を実感した2年次の総合的学習が、次の学習へのエネルギーに転化されていった。3年次、発展的な選択教科で英語を選択したK生は、個人テーマを「分かりやすい単語、文型を使って、総合的学習における自分の体験とそこで自分が感じたことをスピーチで聴き手に伝える。」と設定した。自分の体を通して学びとったことの価値に気づき、総合的学習を契機として全てのことに積極的になれた自分を誇らしく思っていることが、スピーチから伝わってきた。このように、知を総合化し、自分の生き方へ自覚を深めている様子が伺えるような魅力的な学びの姿に出会えたことが、本研究の成果の一つと言えそうだ。

(3) メモリアルコンサートでの3年生代表挨拶

- （略）柳中で充実していたのは、学習の時間でした。（中略）様々なスタイルの学びの場が用意されており、主体的に学ぶ姿勢を伸ばすことができました。

（以下、略）

6 今後の課題

今後も、実践を通してカリキュラムを評価・修正していくとともに、学校としての説明責任の在り方を明らかにしていくことにより、生徒の具体的な姿を通して地域や保護者に信頼される学校づくりを目指していきたい。